

福祉 ちば

No.148 2010.3.23発行



生徒と一緒に校内清掃、バーベキュー大会

◎船橋市立宮本中学校「おやじの会」

おお、きれいになったねえ。おつかれさま——船橋市立宮本中学校には、生徒の父親を中心に「おやじの会」が組織されており、子どもたちと一緒に学校内の草刈り、ごみ拾い、側溝の掃除に汗を流した後、全員で焼きそば、とん汁、焼きいもなどを食べて語り合う「環境整備&バーベキュー

大会」を開いています。

こうした近所のおじさん達と一緒に活動を通じて、生徒は社会常識や助け合い協力し合うことの大切さを身につけるようになり、学校を訪れる保護者や地域住民から「これこそ、生きた福祉教育」と評判です。



地域の福祉、
みんなで参加

赤い羽根
共同募金



編集・発行 社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会

〒260-8508 千葉市中央区千葉港4番3号 TEL.043-245-1101 FAX.043-244-5201 <http://www.chibakenshakyō.com>

この広報誌「福祉ちば」は、一部共同募金の配分金によって発行しています。



皆さんの「地域」への関心が、地域を活性化させ、元気にします!

民間企業が浦安の福祉イベントで社会貢献

千葉県ボランティア・市民活動センターでは、地域づくりを活性化していくために、ボランティア活動の基盤を整えるための支援を行うとともに、民間企業も地域社会を構成している一員であることから、ボランティア活動に取り組む個人や団体のみならず、社会貢献に取り組む企業や労働組合、地域福祉に関係するあらゆる分野の市民活動やNPO等との連携・協働を推進しています。今回は、企業の社会貢献を御紹介します。

キッチン付き大型イベントカー活躍!

野田市に本社を構える株式会社日本一(染谷幸雄社長)が、社会貢献活動の一環として、1月10日に浦安市郷土博物館前の広場で開催された「生き生きと暮らせる街・浦安の実現をめざして」(主催、浦安市地域自立支援協議会)で、焼きとり1000本を無償提供しました。

焼きあがると待機しているボランティアさんによって広場のテーブルへ運ばれ、スタッフは調理に大わらわでした。

また、周辺会場では松崎秀樹浦安市長による「浦安の福祉はスウェーデンを超えられるか〜浦安流福祉をみんなで考えよう〜」と

題する講演会や、千葉県ヒューマンセラピー協会・サイトウ乗馬苑による乗馬セラピーの他、福祉団体の活動紹介など多彩なイベントが開催されました。

県民の皆さんへのご恩返しに—

日本一は、焼きとりをはじめ唐揚げなどの鶏惣菜、うなぎの蒲焼きの加工や販売をしており、昨年11月初旬に「社会福祉に参画し、日頃お世話になっている県民の皆さんに、焼きとりを通じて社会貢献ができれば—。」と千葉県ボランティア・市民活動センターに相談したところ、センターから福祉団体に応募を呼びかけた結果、この焼きとりの無償提供が実現しました。

「キャンペーンや値引きセールを行ってお客様に還元することも可能ですが、それらでは全てのお客様に還元することは難しく、売上げの一部を社会貢献に投じることにより、地域社会や障害者施設などで無償提供を行うことが可能になり、少しでも多くの方々に私たちの活動や日本一の味を知っていただけるのではないかと思います。」と広報室長の川元順一さんは語ります。

地域や障害者施設などで行ったときは、本当に貴重な経験をさせて頂くことができました。当社の焼きとりを通じて、どこの会場でも知らない人同士が「この焼きとり、おいしいね」と話して、かつての隣近所のような顔見知りの関係を築くことができたのではないかと思います。今後も、皆さんの「おいしい」を励みに、「子どもの頃から日本一の焼きとりを食べて育った」と言われるよう、頑張っけていきたいと思っています。イベントカーは現在1台しかなく、まだ始まったばかりですが、参加者が100名を超えるイベントなら、どこにでも出かけます。まずは気軽にお申し込みください。



川元順一
広報室長

ありがとう 善意品



社会と会社と市民と共に歩み、未来へ

企業の社会参加・社会貢献活動の特性が効果的に発揮され、生かされ、社会・市民と共に持続的に発展することにより、「住みやすい社会の実現」のための「新しい力」となります。

- 長引く不況の中、企業のフィランソロピーは、明確なミッションと合意形成による活動行動方針により間接的・長期的に企業価値への貢献に繋がるとい社会性の中で進められています。
- 市民の社会貢献(ボランティア活動等)と、企業や行政、社会福祉施設・団体などが協働・連携した、「住みやすいまちづくり」が求められています。

(参考)22年1月までの実績

月	寄贈者	内容
4月	株式会社ツルハホールディングス クラシエホールディングス株式会社	車椅子10台
10月	千葉県個人タクシー協会	車椅子4台
12月	ノースウエスト航空会社	機内食用食器12種類(約20,000個)
	京葉食品コンビナート協議会 株式会社ガイア	クリスマスケーキ744個 車椅子3台・ぬいぐるみ200個
1月	積水ハウス株式会社関東営業本部	カレンダー(約60点)

いただいた物品については、県内社会福祉施設・おもちゃ図書館・社会福祉協議会にて有効に活用させていただいています。

TOPIX トピックス

庭木の手入れ、水道の水もれ、買い物代行…

身近な困りごと、私たちが解決します!!

●市原市の〈桜台お助けマン互助会〉

同じ地域の住民同士、困ったときは助けられたり、助けたり—市原市の桜台団地には「桜台お助けマン互助会」(吉沢正夫代表)が組織されており、住民が抱える身近な困りごとの解消に活躍しています。



作業は年会費と1時間800円

〈互助会〉結成のキッカケは、昨年4月桜台自治会総会の席で、一人の住民から「高齢者にとっては、日常生活の中で身近なトラブルがたくさんあり、自治の力でなんとかして—」との声があったこと。

数日後、吉沢さんたちの間で、そのことが話題となり「自治会の中には、様々なボランティアグループがあり、声をかければ地域の困りごと解決の組織がくれるのでは…」と意見が一致。早速、他の役員やボランティアグループに働きかけたところ、みんなが「賛成!」と参加の意向を示してくれたのです。こうして10月には「桜台お助けマン互助会」が正式に発足しました。

当初は、純粋なボランティア活動を考えていたのですが、「運営費はどうするのか?」「無料だと、お願いした住民がお礼に悩むことになる」といった意見もあって、それでは「会員制にして、活動に対しては有償で…」と決めました。

その会費は、活動をする〈協力会員〉も、頼む側の〈利用会員〉も年間1,000円。利用会員は、何か修理してもらった場合の材料費は自己負担。作業の手間については1時間800円が基本で、30分単位で計算するシステムになっています。

「地域のため」と自治会も全面協力

この計画には、自治会側が全面協力、事務局を桜台自治会館に置いてくれたり、電話、コピー機、車、受付や連絡係の職員まで、「地域住民のための活動なんだから」と無償で提供してくれています。現在、〈協力会員〉が19名、〈利用会員〉は16名います。その他、賛助会員の個人が6名、法人が1団体。

スタートした昨年10月から平成22年1月末までの申し込み件数は12件。その内容は、庭の雑草の刈り取り、物置の整理、トイレの水もれ修理、玄関のインターホンの修理、障子貼り—など実に多彩。その作業に当たる〈協力会員〉には、入会の際に自分の得意な仕事、持っている資格を申告してもらい、〈利用会員〉からの申し込みに対し、得意分野で腕を振るってもらうことにしています。なお、利用の申し込みができるのは、65歳以上の高齢者ということになっています。

現在、桜台団地は人口の約25%が65歳以上の高齢者であって、庭木の手入れも1人ではできない状況。老朽化した家の小さなトラブルも多く、その解決に同じ地域の住民が活躍してくれるこの団体には、「おかげさまで、低料金で修理が済みました。助かりました。」といった感謝の声が、沢山寄せられています。

地域の〈一芸名人〉掘り起こしも

発足したばかりで色々課題はありますが、住民の皆様が安心して暮らせるよう、組織と事業を充実させていきたいと思っています。作業の幅を広げるため、地域に眠っている〈一芸名人〉を掘り起こして協力会員になってもらうことにするなど、〈お助けマン互助会〉にふさわしい団体に成長させたいですね。



吉沢正夫
代表の話





生徒の成長、
地域に開かれた
学校をめざして

おやじ達よ、 学校へ行こう！



お父さん達も 協力

地元の学校をきれいにし、賢くたくましい子どもを育てるため、清掃やバザー、バーベキュー大会、祭りでふれあう…そんな思いの父親たちが組織しているグループ。

「宮本中学校おやじの会」(大谷浩昭代表、現役会員35名、OB会員70名)が発足したのは、平成2年4月のこと。当時同校は、生徒が近くの神社の境内にたむろして喫煙したり、夜遅くまでうろついたり、学校のトイレのドアを壊したりといった非行が目立ち、教員やPTAも頭を悩ませていました。

PTAは、非行防止を目的に夜間パトロールを実施したものの、中学生ともなると注意しても「聞く耳持たず」という態度の子がいたり、また夜間だけに女性では危険でもあることから「この際、お父さんたち



宮本中学校おやじの会・大谷浩昭代表

の協力を一」ということになり、呼びかけた結果「おやじの会」の誕生となりました。当初の会員は10名弱だったといえます。

以来「おやじ達よ、学校へ行こう」を合い言葉に、まず学校周辺の夜間パトロールを始め、その後、会員も増えて、茂呂神社、日枝神社の祭礼、船橋大神宮の盆踊りにも、1グループ7、8名の2班編成でパトロールを続けてきました。

また、校舎のあちこちで見つかった破損個所や老朽化した個所の補修にも手をのばし、そこではOB会員で元大工さん、左官屋さんが得意の腕前を發揮しました。

掃除の後は、 バーベキュー

平成5年からは「環境整備&バーベキュー大会」を始め、5月、9月、1月、3月の年4回、土曜日の午前中から昼頃まで実施。これには、学校側が「自分たちの学校をきれいにしてくれるのだから、みんなで手伝おう」と生徒に働きかけ、結局部活で学校に来ている野球部、テニス部をはじめ男女の生徒有志を



含めて約150名が「おやじの会」のメンバーと一緒に、校内のクリーン活動に参加するようになりました。

1月23日に行われた「環境整備&バーベキュー大会」には、午前10時頃から約2時間、雑草の刈り取りや側溝の掃除、ごみ拾いに「おやじの会」の会員30名と生徒約150名が汗を流しました。生徒の一番の楽しみは、校庭の南隅の空き地で行われるバーベキュー大会。

「おやじの会」のメンバーの中には、飲食店の経営者や料理自慢もあり、これにPTAのお母さん数人も協力して、焼きそば、焼き肉、とん汁、焼きいもづくりにそれぞれ大奮闘。次々にやってくる生徒の対応に大わらわ。

広場では、クラスメイト同士で「自分たちで拾い集めた落ち葉で焼きたいもは一味違うね」といった会話が交わされ、「味はどうかね?」と尋ねるおやじの会メンバーに「焼きそばも、とん汁も、焼きいもも、どれも最高においしいです」と元気に答えていました。

大人と 身についた礼儀や常識

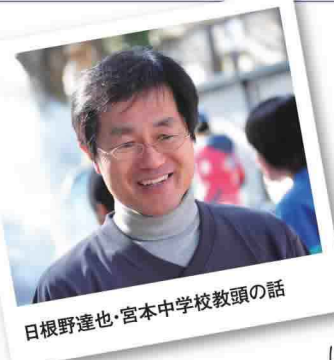
平成15年にはそれまでPTAが中心となって開催していたバザーをPTA、学校、地域住民の三者で協力して実施する「地域交流会」が行われるようになり、「おやじの会」はそこでも得意の料理づくりに活躍しています。これには、生徒も売り子としてお手伝い。「どれでも100円で～す。いらっしやい!!」と声を張り上げます。

なかには、恥ずかしいのかお客さんに黙って注文の料理を渡すだけ—という子もあり、そんな場合おやじ達は「買っていただいたのだから、ありがとうございます—をきちんといわなきゃ」と注意します。「多少うるさいなあと思われても、それが人としての礼儀ですからね。」

また、特に毎年7月下旬に船橋市中心街の本町通りで行われる「市民まつり」の際は、たくさんの宮本中の生徒も参加するため、ケガの防止や「非行につながる行為はないか?」見守りを強化する一方、「せっかくのお祭りだから、最高に楽しくしてあげたい」と神輿の組み立てから練り歩きの一部始終の見守りも行っています。

こうした近所のおじさんや地域住民との交流を通じて、生徒はごく自然に礼儀や常識を身につけ、今では非行も激減。これが高い評価を受け、市内の小・中学校にも「おやじの会」が次々に誕生し、(地域に開かれた学校運営)の波も大きく広がっています。

この「おやじの会」の活躍ぶりに大谷代表は「メンバーの多くはこの地で生まれ育った土地っ子。それだけに、何かやろう—というときのまとまりは抜群で、また(地元の子は地域で育てる)開かれた学校にしたい」という意識も強いのでしょうか」と話しています。



日根野達也・宮本中学校教頭の話

福祉教育にも 大きな効果

生徒は「おやじの会」の活動にイキイキ楽しく参加させていただいています。学校としてもこうした大人とのふれあいは、社会性を養う絶好の機会であり、福祉教育の面でも大きな意味がある。クラスメイトとの助けられたり、助けたりの関係も、自然に身につけている—と実感しています。「おやじの会」の方々には、本当に感謝するばかりです。

福祉の仕事は
楽しさ・やりがい
いっぱい!!

6

食事は大切。 この思いを忘れずに 仕事を続けたい

2005年10月の介護保険法改正により、高齢者施設では管理栄養士・栄養士を中心とした栄養管理体制の充実が図られてきました。さらに、来年度に実施される改正では、介護予防の項目に栄養指導の導入が予定されており、今後の活躍がさらに注目されるでしょう。今回は、高齢者複合ケア施設「グリーンヒル八千代台」で管理栄養士として働く、上川内恵理さんを訪ね、仕事のやりがいや魅力についてお聞きしました。

●顔が見える職場で、手応えを感じたい

高校生のときは、スキーのインストラクターになりたくて、北海道で寮生活を送っていました。ところが、親元を離れて間食や夜食がし放題という環境にいたら、半年で体重が10kgも増えてしまい、そのときに「食べるってすごく大事なことだ」と感じました。

以来、栄養士を自分の進路と決めた上川内さん。大学卒業後に就職したのは病院や高齢者施設に食事を提供する委託給食の会社。「とにかく、作っている現場で働きたい」と希望した結果、配属されたのが老人保健施設でした。その後、働きながら管理栄養士の国家資格を取得し、「グリーンヒル八千代台」で管理栄養士として働いています。

「前の職場では、食事をする方と接する機会がほとんどなく、相手の顔が見える職場で働きたくて転職しました。」と上川内さん。ご利用者が昼食中のときは各テーブルを回り、「お味はいかがですか?」と尋ねると、ナマの声が返ってくる—それが何より楽しくて勉強になります。もちろん、当初はとまどいもあり、ご利用者とのコミュニケーションも上手にできたわけではありません。

〈こんにちは〉までは誰にも言えますが、その後の言葉がスムーズに出てこないのです。でも、現場で介護スタッフがご利用者と接する姿を見ているうちに、あの方にはどっちの耳がよく聞こえるとか、どれくらいお話ができるとか、それぞれの特徴も分かってきて、ごく自然に声をかけられるようになりました。

●専門性を活かして、お年寄りの健康を守る

ご利用者の健康を守るために、様々な専門スタッフとうまく連携していくことが大切だと感じています。ご利用者ごとに栄養ケアマネジメントのプランを立てますが、栄養士だけで作成できるものではなく、ご利用者のお好みや体調も関わるため、他のスタッフと相談しながら組み立てます。いろんな人の意見を調整するのは大変ですが、相手を尊重する気持ちをもって仕事にあたっています。



しかし、管理栄養士は施設の中に一人だけ。迷ったり、悩んだりすることもあります。何かあったとき誰に相談すれば良いのかと不安になったこともありました。法人のグループ施設にベテランの管理栄養士さんが勤務されており、困ったときにはアドバイスをいただき、とても心強いです。

●人間性を豊かにする福祉の仕事

仕事をしていて一番うれしいのは、「栄養士さん」とご利用者から声をかけられ、話をする。〈昨日の夕飯はおいしかったよ〉などご利用者から声をかけられると、自分の仕事に責任とやりがいを感じます。皆さんにできるだけ食事を楽しんでいただけるように、旬の素材を使ったり、リクエストをメニューに組み込んだりと工夫しています。前回のリクエストはスパゲティミートソース。洋食人気もかなり高いんですよ。いまでは、プライベートでもお料理するのが大好きだそうで、「休みの日も、家族の食事を作ったりします。食事の大切さはご利用者も自分の家族も同じです。この気持ちは、今の私の原点。忘れずにいたいと思います。」と上川内さんは話します。

最後に、これから介護の現場で働きたい—と思っている皆さんへのメッセージをうかがいました。

「私にも祖父母がいますが、耳が遠かったり、忘れっぽかったりして、以前は話していて誤解してしまうことがありました。でも、高齢者の方たちの栄養ケアをするようになって、相手の気持ちを汲み取ろうと思えるようになりました。〈施設で働いてよかったね〉と家族も喜んでくれています。お年寄りに馴染みのない人にとっては、知らないことばかりの世界かもしれませんが、高齢者介護をはじめとする福祉の仕事は、人間性を豊かにしてくれる。とてもやりがいのある仕事だと思います。」



高齢者複合ケア施設
「グリーンヒル八千代台」
管理栄養士・上川内恵理さん



上川内さんの

- #### 1 日のスケジュール
- 8:30 出勤、申し送りのあと、室内を清掃
 - 9:00 新しく入所する利用者のための栄養ケアマネジメントのファイルを作成
 - 11:00 利用者の水分補給の状況を集計・確認
 - 11:40 昼食中の利用者のテーブルを回る
 - 12:40 休憩(昼食)
 - 13:30 夕食の準備について調理士と打ち合わせ
 - 14:00 利用者がお箸について、ケースワーカーと一緒に業者と打ち合わせ
 - 15:00 リクエストメニューを加え、翌月の献立の調整
 - 16:00 1ヵ月分のおやつリストを集計・栄養バランスを確認
 - 17:30 勤務終了、後片付け
 - 18:00 帰途につく

平成21年10月から新制度が START! 「生活福祉資金」が変わりました

平成21年10月より低所得の方を対象に低利で生活費を貸し付ける「生活福祉資金貸付制度」の要件が大幅に緩和されました。「生活福祉資金貸付制度」は、低所得者や高齢者、障害者の生活を経済的に支え、社会参加の促進を図ることを目的とした貸付制度です。資金種類が統合・再編され、資金ニーズに応じた柔軟な貸付を実施できるように見直しが行われました。本制度の主な改正点や運用等についてお知らせします。

◎総合支援資金の創設

失業等により生活に困窮している方へ、継続的な相談支援(就労支援、家計指導等)と併せて、生活費及び一時的な資金の貸付を行い、生活の立て直しを支援する新たな資金の種類が創設されました。

◎連帯保証人要件の緩和

原則として連帯保証人が必要ですが、連帯保証人の確保が困難な方に対しても貸付を行えるようになりました。

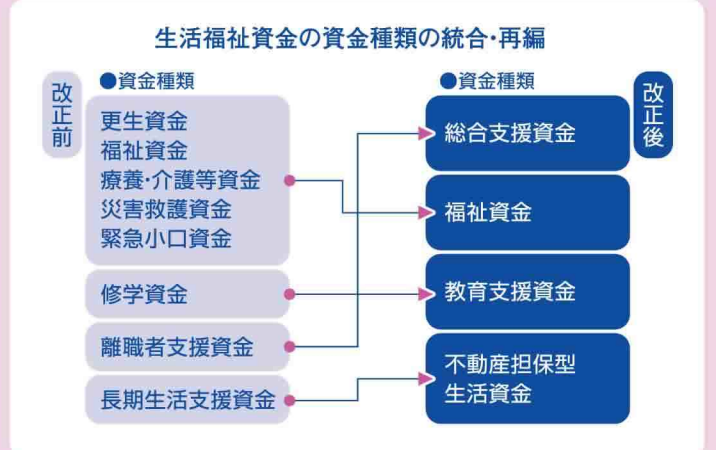
◎貸付利率の引き下げ

本貸付事業の利用の促進を図るため、連帯保証人を立てられた場合は無利子で、連帯保証人を立てられなかった場合は見直し前の年3%から年1.5%に引き下げを行います。(ただし、緊急小口資金、教育支援資金(見直し前の修学資金)については、無利子です。)

◎臨時特例つなぎ資金の創設

また、生活福祉資金貸付制度とは別に、解雇や派遣労働者の雇止めなどにより、離職者を支援するための公的給付制度や公的貸付制度を

申請している住居のない離職者に対し、当該給付金や貸付金の交付を受けるまでの当面の生活費を迅速に貸し付け、自立を支援する「臨時特例つなぎ資金」が創設されました。貸付条件等ございますので、詳しくは市区町村社会福祉協議会の窓口でご確認ください。



■相談・申請窓口は、お住いの市町村社会福祉協議会です。
■お問合せ先
千葉県社会福祉協議会 地域福祉推進部 福祉資金班
TEL 043-245-1551 FAX 043-245-9338
*なお、本事業のさらに詳しい内容等については、当会のホームページ(<http://www.chibakenshakyo.com/>)でも確認できます。

安心を支えます ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償事故を補償

特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症(日射病・熱射病)による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震等天災によるケガも補償(天災タイプ加入の場合)

ボランティア行専用保険
地域福祉活動の一環として行うボランティアに関する行事におけるケガや賠償事故を補償!

福祉サービス総合補償
ヘルパー・ケアマネジャー等の活動中のケガや賠償事故を補償!

送迎サービス補償
送迎・移送サービス中の自動車事故等によるケガを補償!

保険料(掛金) | Aプラン...260円 Bプラン...420円 Cプラン...590円
天災危険補償タイプもあります。

※各プランの保険金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご覧ください。

お申込み、ご照会は、あなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
<http://www.fukushihoken.co.jp>

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

〈累犯障害者〉の再犯を防ぎ、自立を全面支援！

千葉県が「地域生活定着支援センター」立ち上げへ



千葉県健康福祉部
健康福祉指導課
平井 正久 課長

障害などで福祉的な支援が必要にもかかわらず、支援が受けられないため、犯罪を繰り返す障害者（累犯障害者）等の方々のため、福祉サービス等へ繋げて自立のお手伝いをする—その中心拠点となる「地域生活定着支援センター」の計画が千葉県で動き始めました。

* モデル事業で運営上の課題を探る

「地域生活定着支援センター」は、県が社会福祉法人等に委託して行う事業です。

また、〈地域生活定着支援センター〉が担当する累犯障害者等の方々には、刑務所や保護観察所が、本人とよく話し合ったうえ、年齢的なこと、知的障害者の程度、日頃の言動を含めて「地域で支えれば立ち直れる」と判断された方です。

とにかく、千葉県として初めて取り組む事業ですので、現実としてどこにどんな問題があるのか、福祉サービスにつなげるための手続きにどのようなものがあり、必要な時間はどの程度要するか—を把握しなければ、その人にふさわしい福祉サービスを提供することができません。そこでまず、県内2カ所の知的障害者施設にモデル事業所になってもらい、出所から2～3か月更生保護施設で過ごしている間に療育手帳や生活保護等を市町村へ申請し、障害者2人を、今年2月から職業訓練などの福祉サービスを受けるため、施設に受け入れていただくことになりました。

現在、2人とも施設やグループホームを利用しながら、社会復帰の夢に向かって様々な作業に取り組んでいます。一定期間を終えた段階で、本人の希望や適性を考慮して仕事を見つけ、自活の道を探ることになります。

センターができれば、センターが中心となって保護観察所や受け入れ施設などの関係機関と調整することになります。

* 何より「自分の居場所」づくりに気配り

今回、快く受け入れてくれたAモデル事業所の担当者は「罪を償ってきたのですから、決して元犯罪者と見ることはないし、逆に特別扱いもしません。何よりも自分の居場

所〉と思える環境をつくり、自活に向けた支援をしていくつもりです」と語りました。

また、B施設の担当者も「累犯障害者の受け入れについては、私共の施設ではすでに実施していることで、戸惑いはありません。彼等が求めているのは

1
安心の
住居

2
安定した
職場

3
あたたかい
人間関係

この3つが揃っていれば、再犯は必ず防げる。そんな思いで接しており、これからも続けていくつもりです。」と話しています。

* 一般公募ののち7月頃にはオープン

刑務所を出たけれど、世間の目は冷たく、親兄弟にも敬遠され、仕事もなく、住む所もない。まして障害を持っていたり、高齢とあっては、再び犯罪に手を染めることになり、刑務所へ逆戻り—この悪循環を断ち切る、すなわち「再犯の防止」のために必要な福祉サービスにつなげるというのが〈地域生活定着支援センター〉最大の使命です。

〈1県に1カ所〉という条件はありますが、すでに全国では11カ所が発足しており、千葉県としても1日も早くモデル事業の中で浮かび上がってきた問題を整理し、具体的な運営プランを作成すべく作業を急いでいます。そして4月から5月に運営の委託先となる福祉団体を一般公募し、7月頃には正式にオープンさせる予定であります。

この事業を成功させるには、受け入れ先施設のネットワークづくりはもとより、地域住民、そして福祉団体や企業の理解と協力がぜひとも必要です。県民の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

一人ひとりのニーズに
応えたい！

シリーズ7

編集
後記

今号の「福祉ちば」はいかがでしたか？

昨年の4月に「福祉ちばプロジェクトチーム」が結成され、「親しまれる広報誌」「地域社会へのメッセージの発信」を目指して、メンバー一同、誌面づくりに取り組んで参りました。情報を求めている方々へ、いかに必要な情報を伝達するののかという課題もありますが、御意見・御感想等がございましたら、お寄せください。

さて、私は自他共に認める愛猫家です。〈猫がいなかったら、

自分の人生はどうなっていたのだろうか…。〉とよく思います。

社会に一步踏み出すと、「魔界の人間か？」と思うような人と出会い(笑)、心身ともに疲労困憊することもあります。猫は、肉球などを触っているだけで気分を落ち着かせてくれます。猫も仕方なく(?)私を信用してくれて、おなかを見せて寝ころぶ—。その姿を見るたびに、「たとえ化け猫になっても、長生きして我が家に居続けてほしい!」と強く思います。そんな私は、やっぱり猫が好きです。(安藤)

